

【公開】ラリー・ウィリアムズの“価格ではなくタイミング”を読む予測とは

「ラリー・ウィリアムズのフォーキャスト 2026」を日本語に翻訳したナリタが、その活用方法をわかりやすく解説します。

フォーキャストの本質：価格ではなく“タイミング”を読むレポート

一般的な市場予測レポートは「どれくらい上がるか・下がるか」という価格予測が中心です。しかし、ラリー・ウィリアムズのサイクル予測はまったく異なります。

ラリーの予測は **価格ではなく“タイミング”に特化** しています。

そのため、日経平均が 2026 年にいくらになるかといった価格予測は一切含まれていません。

もし価格の予測を期待しているなら、フォーキャスト 2026 はあなたが求めているレポートではありません。

サイクル予測の見方：赤線・灰色線・青線の意味

ラリーのサイクル予測は、複数のラインで構成されています。

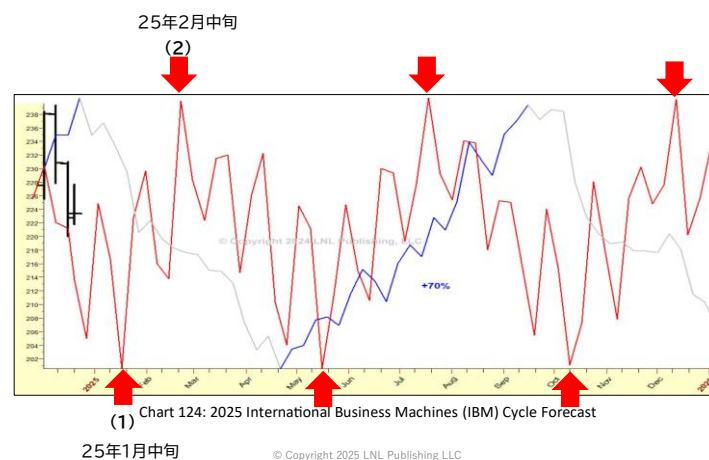
- **赤線**：短期サイクル(反転ポイント)
- **青線**：長期サイクルの上昇確率が高い期間
- **灰色線**：補助的なサイクル指標

特に注目すべきは **横軸の日付** です。

ラリーは過去、転換点の日付を明記していましたが、予測日と実際の反転が完全一致しないことから、読者から修正依頼が殺到。

その経験を踏まえ、現在は日付の明記をやめ、サイクルの“タイミング”そのものを示す形式に変更しています。

実例：IBM の短期サイクルはどう機能したか？



フォーキャスト 2025 に掲載された IBM のサイクル予測では、短期サイクルの反転ポイントが複数示されていました。



実際の 2025 年の IBM 株価チャートと照合すると、2024 年末時点で予測された反転ポイントがほぼその通りに機能していたことが確認できます。

サイクル × テクニカル分析で精度を高める

反転ポイントを事前に知っていても、実際にその場面で逆張りするのは簡単ではありません。そこで重要になるのが **テクニカル分析との併用**です。



例として、ある反転ポイントでは以下のような“乖離”が発生していました。

- 価格: 安値を更新

- ADX: 反発(トレンドの弱まりを示唆)

このような価格と指標の乖離は、反転が近いサインとしてよく現れます。

これを確認できれば、

- 利確の判断
- 反転を狙ったエントリー

が格段にしやすくなります。

もちろん、新規ポジションを建てる際は資金管理が最優先です。

ラリー自身も、サイクル分析だけでポジションを取ることはありません。

複数のエビデンスを組み合わせ、その一つとして短期サイクルとテクニカル分析を活用しています。